

## 平成25年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：檜山地区
- 2 事例報告学校名：せたな町立瀬棚小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 央戸 了
- 4 キーワード：子どもたちの瞳が輝く性教育「健康教育」

### 1 「健康教育」として6年間の実践



「赤ちゃんって重いー！」

せたな町は、平成20年度に文部科学省の委託事業として「子どもの健康を守る地域専門家総合連携調査研究事業」を推進しました。これは、町が子どもの現代的な健康課題として実態を把握し、「学校・家庭・地域が一体となって子どもの体力づくり、生活習慣に対する意識を養うこと」を目的としたものです。この事業は1年限りでありましたが、本校は、この事業をきっかけに自分を大切にすることや相手を思いやる心情・態度を育てる教育活動として、助産師、看護師、産婦人科医師など生命誕生の第一線で活躍しているプロ

を招いた「全校性教育講話」を毎年実施しています。計画・実施・評価・改善を積み重ね、定着してきた本校の実践を紹介します。

### 2 子どもたちの瞳が輝く性教育の実践

(1) 低学年：赤ちゃん人形「命って重いね！」

《低学年の指導内容》

- ・おとこのこおんなのこ・わたしとかぞく
- ・みんななかよく
- ・こんなときどうする（性被害の予防）

低学年では、男女の体の違いやおへその役割、お母さんのおなかで胎児が成長する様子も学びます。ドップラーで自分の心音を聴いたり、約3kgの首が据わっていない赤ちゃん人形を抱っこしたりする体験もあり、毎年子どもたちに大人気の活動になっています。

心臓の音を聴いたよ！



(2) 中学年：「精子の旅は地球から月までの距離と同じ?!」

《中学年の指導内容》

- ・わたしの誕生・男女なかよく・初経ってなあに
- ・こんなときあぶない（性被害の予防）

精子がたくさんを試練を乗り越えて卵子と受精するDVDを観た子どもたち。0.05～0.06mmの精子にとって卵管にいる卵子までの距離は、私たち人間が地球から月まで行く距離に匹敵するという表現に、驚きを隠せ



ない様子となります。また、受精した精子が違っていたら、今ある自分は存在しないという事実に、命の大切さを改めて感じます。

### (3) 高学年：「知らなかったことがわかった！反抗期は心の成長期」

《高学年の指導内容》

- ・生命のつながり・変わっていく心と体
- ・異性の友だち・知ろうよエイズのこと
- ・性被害の予防

性教育講話を始めた当初は、初経、精通という言葉に恥ずかしさを感じ、うつむいたり目をそらしたりする子が少なくありませんでした。

今年度の6年生は、6回目の性教育講話となりました。回数を重ねたことで、第二次性徴は誰にでも起こる当たり前の事という子どもたちの意識の変化が見られました。

自分たちの体と心が、大人へ変わっていくことをリアルに感じるのが高学年です。講師との信頼関係ができ、自分の体の変化を素直に受けとめ、安心してお話を聴く姿勢ができていることも、成果のひとつと感じています。



資料で第二次性徴の  
確認作業…

#### 《講話後の児童の感想から》

「反抗期は大人になるための大事な心の変化だとわかりました」

「知らなかったことがわかって嬉しかったです」

「一人一人成長が違っていいとわかり安心しました」

「中学校に行っても、また教えに来てください」

### 3 性教育「ま・み・む・め・も」

「ま」 継続して実践をまとめ

「み」 みんなで共通理解し

「む」 保護者と学校をむすぶ性教育を

「め」 めざすところは、子どもたちの幸せな人生のため

「も」 子どもたちの「もっと知りたい！」が教師の原動力

複雑な親子関係が珍しくない昨今、望まない妊娠や出産も現実としてあり、性教育の実践では生命の神秘性にのみ偏ることなく、科学的な視点も大事だと言われています。今、私たちに求められている理論と実践の確かな結びつきが、子どもたちの「心身の健やかな育み」に寄与していくことを実感しています。このことを励みに、今後もこの教育実践を継続して取り組んでいきたいと考えています。

#### 資料：生命のはじまり

